



町教育委員会にジャガイモを寄贈

氷室で熟成させた特産のジャガイモ「あつまいも」(メークイン)を取り扱う株式会社伝平さんの畑の下司義之代表取締役は1月23日、「あつまいも」60kgを町教育委員会に寄贈しました。

昨年11月に野菜ソムリエが全国の美味しいジャガイモを決める「第1回全国ジャガイモ選手権大会」で銀賞を受賞した報告を兼ねて、厚真産のジャガイモのおいしさを子どもたちに味わってもらおうとプレゼントしました。ジャガイモは、給食センターでカレーなどに調理され、子どもたちに振る舞われました。



ジャガイモを贈る下司さん



頭の体操をする参加者の皆さん

高齢者大学で健康講座開かれる

高齢者大学の健康講座が1月26日、総合福祉センターで開かれ、参加者は管理栄養士の健康講話や減塩食の試食、血圧測定や健康相談などで体調の維持や不安を解消しました。

減塩食の試食では、町食生活改善推進協議会のメンバーが「油揚げの和風ピザ」など豆類を使った3種類の減塩食を提供。参加者26人は、「おいしい」と感想を述べながらお代わりしました。また、健康講座では、バランスの良い食事を取り、人や地域社会と交流することで介護が必要になりやすい状態(フレイル)を緩和することができることなどを学びました。

JR北海道の維持困難線区に関する東胆振首長懇談会は2月12日、JR日高線の苫小牧～鷗川間でラッピング列車をプレ運行して車両をお披露目しました。

列車は、H100形と呼ばれる車両で、車体には国と北海道の補助制度を活用してアイヌ文化や馬産地をモチーフにしたイラストやむかわ町で発掘された「むかわ竜(通称)」が描かれています。JR日高線では、事前に公募し当選した一般客等25人と沿線自治体関係者が乗車し、雪原と太平洋を望みながら往復約1時間の“小旅行”を楽しみました。乗車した町民の親子は「おしゃれなデザインですね。将来、また乗りたい」と感想を述べ、西野和博副町長は「地域の文化や歴史をモチーフに素晴らしいデザインが描かれています。これを機に、日高線を利用していただきたいと思います」と話しました。

苫小牧駅ではこの後、JR日高線ラッピング列車とJR室蘭線ラッピング列車が展示され、記念写真を撮影する大勢の家族連れでにぎわいました。

JR日高線ラッピング列車をお披露目



厚和通り踏切近くの鉄橋を渡るラッピング列車